

「『史上空前の論文捏造』と“変容する科学” ～番組取材の現場から～」

村松 秀 (NHK科学・環境番組部 専任ディレクター)

科学論文の捏造事件が絶えない。21世紀に入ってからだけでも、米ベル研の超伝導にまつわる史上空前規模の論文捏造事件、韓国ソウル大学などによるヒトクローン胚由来ES細胞の捏造事件、日本でも東大工学部のRNA研究に関する捏造疑惑、さらには阪大、理研など、国内外の研究機関で事件・疑惑が頻発している。演者はNHKのディレクターとして、これらの取材を数年来続け、何本もの番組を制作してきた。一連の取材の中で実感するのは、捏造はそれを起こした人物の倫理観の欠如だけに帰結するのではなく、科学界全体が抱える構造的問題によって引き起こされた、という点である。科学は20世紀の間に大きく変容を遂げたが、制度やシステムはそれに十分な対応が出来ておらず、そうした科学のありように生じたゆがみの中で捏造が発生しているとも見える。今求められるのはまず、21世紀における科学とは何か、科学者とは何をすべきか、という根源的な問いに科学界が答え、それを立脚点にして必要とすべき科学倫理を再構築すべきなのではないか、ということである。拙講では、取材を通じて明らかにしてきた様々なケーススタディを踏まえながら、科学界の課題について述べたい。

< 論文捏造に関する主な担当番組 >

BSドキュメンタリー「史上空前の論文捏造」

NHKスペシャル「論文捏造 ～夢の医療はなぜ潰れたか～」

クローズアップ現代「揺らぐ科学の信頼 ～東大・論文捏造疑惑～」

< 関連する書籍 >

中公新書ラクレ「論文捏造」

丸善「科学者ってなんだ？」(共著)